

項目	高橋委員	西田委員	丸山委員	村井委員	吉本委員
1 経営 政策目標 横浜美術館は国際都市横浜の魅力を牽引します。	【評価できる点】 トリエンナーレやコレクションの海外巡回展など積極的に海外と交流する姿勢。	【評価できる点】 ・「美術館と国際展をめぐる連続講座」開催は、テーマ(展示・鑑賞/キュレーション、建築)を通して国際展の企画運営における課題や美術館の役割を検証、トリエンナーレ2020への取り組みとして評価します。 ・調整の努力を経て、コレクションの巡回展をカナダと契約締結する等海外発信に着実に歩を進めています。 ・広報におけるウェブサイトやメルマガへの目標を上回る関心の高まりは、コンセプトやターゲットの明確化、活動強化の成果として評価できます。 ・外部連携については、専門館連携、外部連携等、多様な連携事業を成立させ、目標を上回る実績及びオリジナリティの高い事業の展開等、地域や社会に開く美術館としての魅力と可能性を一段と広げ、期待できます。	【評価できる点】 横浜トリエンナーレのこれまでの実績を活かし、さらに内容を充実させるべく、来年度のトリエンナーレの準備が進められていることが確認できました。海外巡回展も実現されることになりました。	【評価できる点】 政策目標(経営)「横浜美術館は国際都市横浜の魅力を牽引します。」の達成をめざし、多角的に活動を実施し、成果を上げつつある点を評価したいと思う。 特に、ヨコハマトリエンナーレ2020に向けて企画運営の課題検証のために連続講座を開催した点、さらに懸案事項であった海外巡回展が開催決定したことについては、成果として高く評価する。	【評価できる点】 写真コレクションのカナダでの海外巡回展の契約締結は大きな成果として評価できる。
	【更なる取組を期待する点】 広報事業の遅延。	【更なる取組を期待する点】 ・トリエンナーレや、海外巡回展においては、調整における時間や稼働のかりがちな業務であることから、一層計画的に、また見通しのよい業務推進を期待します。 ・海外インターン受け入れについては、継続的・組織的な人的繋がりのしっかりした枠組みの構築を目指していただくことを期待します。	【更なる取組を期待する点】 海外からの来館者の増加が予想される来年度に向けて、様々な場面やニーズを想定した準備が必要になると思います。	【更なる取組を期待する点】 海外巡回展の足がかりができ、今後の展開に期待したい。カナダでの巡回展開催に向けて、チェックリスト等を作成し、今後の企画実施のためのノウハウを蓄積してほしい。また、PCM(開発援助のためのプロジェクト・サイクル・マネジメント)の手法を参考に、横浜美術館の価値発信だけでなく、互いの組織や人材の「学習と成長」の観点からも会話型で成果を検証できる方法や成果の公開方法も検討してほしい。 また、若い世代向け広報には、人気のあるユーチューバーからの発信は効果があると聞くので、ターゲットによっては新たな広報戦略にもチャレンジしてほしい。	【更なる取組を期待する点】 カナダでの海外巡回展の実現を、次のステップにつなげ、美術館の国際的なネットワークの中に、横浜美術館及びそのコレクションが位置づけられるよう引き続き取り組みを継続していただきたい。30周年記念のウェブサイトの公開が遅れたのは残念。大規模改修中に、Web(PC用+スマホ用)、SNS、トリップアドバイザー(来日客の来館戦略)等を総合的に見直して、強化してはどうか。
2 事業① 政策目標 質の高い多様な展覧会の実施と発信を通じて、来館者の裾野を拡げます	【評価できる点】 各展覧会の質的充実と共に、入場者の増大(モネ展)。	【評価できる点】 ・企画展については、ヌード展、モネ展、駒井展、ノグチ長谷川展と、興味を喚起する多彩多様なプログラムが組まれ、挑戦、その発信を通して来館者の裾野を広げることができました。 ・東アジア・パシフィック国際巡回展参加のヌード展(テート収蔵)は、西洋美術としてテーマの本質に迫り、入場者が目標値に届かなくとも、その価値にチャレンジし、新たな視点を市民に伝えたことは評価できます。 ・モネ展は後世の作家による作品対比など学芸員による構成、見せ方の工夫、タイミングのよい告知等も含め、実績が集客目標を上回りました。 ・NAPは若手支援にふさわしい意欲的な見せ方(詩のインスタレーション、情報センター等会場設営など)が入場者数にも成果を発揮し、視察では若い鑑賞者の姿も多く目にしました。NAPにおける可能性が一段と、繰り広げられたことを評価します。	【評価できる点】 モネ展の企画主旨は、わかりやすく、集客につながったと思います。また、鑑賞後の満足度も高かったのではないかと思います。モネ展を主軸としたうえで、年間の企画展の組み合わせが適切でした。	【評価できる点】 4つの企画展だけでなく、若手作家支援(NAP)も、大変質の高い事業であったと思う。企画展はどれも横浜美術館の独自性をアピールできる内容であったと思う。またNAPでは詩人を取り上げ、展示方法にも工夫が見られ、今後の新たな展開(扱うジャンル、施設利用方法など)を示唆するものであったと思う。 政策目標(事業①)「質の高い多様な展覧会の実施と発信を通じて、来館者の裾野を拡げます。」の達成に向けて多角的に取り組み、成果ある事業内容となっていた点を高く評価したい。	【評価できる点】 「モネそれからの100年」は従来のモネ展と異なり、現代美術と組み合わせて観客にモネの新たな発見を促したという点で、学芸員の丁寧な仕事や名古屋市美との協働が大きな成果に結びついたケース。集客面でも大きく貢献しており、今後の企画展の目指す方向としても参考になるのではないか。
	【更なる取組を期待する点】 -	【更なる取組を期待する点】 ・企画展では、テーマ・タイトル等、鑑賞者に企画のねらいや魅力が届くよう効果的な手法を用いていただくことを期待します。 ・NAPは、今後も様々な若手作家の紹介や実験的展示による多様な来館も見込まれ、次世代アートの振興を踏まえ財源等確保にも注力を期待します。	【更なる取組を期待する点】 「イサム・ノグチと長谷川三郎」展が目標の80%ほどの入場者数にとどまったのは非常に残念でした。記念講演やレクチャー等も開催され、後援・協賛も多く、よく準備され、充実した企画であったと思います。開催の季節、元号が変わる直前の落ち着いた世相、1950年代というのが中途半端とか、要因を分析してもらいたいと思います。	【更なる取組を期待する点】 これまでの若手作家支援(NAP)の集大成を何らかの形で、改めて公開したのだろうか。アーティスト発掘の「目利き」としての美術館のあり方も示すことができるだろう。 今後、詩以外のジャンルも取り上げてほしい。また、アトリエゾーンも含めて、複数の若手アーティストを紹介する拡大版NAPの開催も検討してほしい。	【更なる取組を期待する点】 NAPの最果タレ展は、従来の美術館来場者とは異なる層の観客が多数訪れるなど、未知数ながら果敢な取り組みで成果が表れた事業だと思う。従来の美術館事業の枠にとらわれることなく、新たな芸術表現に対するアンテナの感度を高め、挑戦する姿勢を堅持してほしい。
2 事業② 政策目標 魅力的なコレクションを形成、活用するとともに、未来へ継承します。	【評価できる点】 館コレクションの他館での展覧。	【評価できる点】 ・コレクション展の集客150%は、コレクションの価値と魅力が存分に発揮され、国内初めての活用(高知県立、アーツ前橋)も含め画期的であり、成果を高く評価したいと思います。 ・とりわけ横浜美術館コレクションの他地域への発信は意義大きく、今後の国内外活用の道筋を示すことができました。美術情報センターについては市民のアトリエと共同の講座開催やNAPの一会場になるなど地道に新しい試みに挑戦し、利用者数の目標を達成しています。	【評価できる点】 本館のコレクションの特色が来館者に定着しつつあるように思います。何回も本館でのコレクションを鑑賞したりリピーターであっても、同じ作品を異なるコンテクストから眺めるとこんなに違うのか、といった印象をもったのではないかと思います。	【評価できる点】 継続して、政策目標(事業②)「魅力的なコレクションを形成、活用するとともに、未来へ継承します。」の達成をめざし、質の高い事業を実施できている展は驚異的とも言える。 企画展と関連したコレクション展の質の高さが、企画展の観賞体験の質を高めていると思う。この連携は今後も継続してほしい。 また、国内でコレクションパッケージ展の開催、コレクション検索ページの公開は、大規模改修中の事業展開の試金石となったのではないだろうか。今後の展開に期待したい。	【評価できる点】 高知県立美術館やアーツ前橋でコレクションのパッケージ展が実現できたのは大きな成果。
	【更なる取組を期待する点】 よりきめ細やかで目的性の高い作品収集と展覧方法。	【更なる取組を期待する点】 ・大規模改修期間に伴う、コレクションの保管・蔵置や国内外活用についての検討が引き続き十分になされることを期待します。 ・調査・研究については、環境整備、財源の確保などに努め、未来への継承を視野に取り組んでいただくことを期待します。	【更なる取組を期待する点】 コレクション展の国内外での更なる展開が望まれます。同時代の横浜と現地との比較等、多様な可能性があるのではないでしょうか。	【更なる取組を期待する点】 コレクションパッケージ展、ならびにコレクション検索ページについては、達成指標を観覧者数や公開数だけでなく、満足度なども検証できるようにしてほしい(この評価全般に言えることだが)。 今後、「コレクション検索ページ」をデジタルアーカイブとして市民が利活用できるようにしていくために、どのような改善を必要としているのかを検証していくプロセスも必要だと思う。	【更なる取組を期待する点】 作品画像のウェブへの公開は引き続き拡充すべきだと考えるが、「検索ページ」では「事情により画像は公開していません」というサムネールが多数並ぶケースが多くネガティブなイメージを与えかねない。検索結果の表示を工夫してはどうか。また、画像データについてはGoogle Arts and Cultureなど、国際的なネットワークとの連携も検討してはどうか。
2 事業③ 政策目標 美術と市民を様々な糸口でつなぎ、美術の魅力を伝えます。	【評価できる点】 多彩な教育プログラム。コレクション・フレンズの強化。	【評価できる点】 ・教育プログラムは横浜美術館のもつ多機能性を活かし、多様な市民に向けて、きめ細かく、美術への親しみや理解を広げる様々なプログラムを展開し、美術と市民を繋ぐ試みを遺憾なく発揮しました。ことに中学生による小学生むけ鑑賞プログラム、出品作家による若手アーティストトークなど連携を深める取り組みで美術の魅力を伝える機会を提供しました。 ・教育プログラムを通して、蒔かれる種は子供達の未来につながるものとして期待するところ大です。 ・市民協働の取り組みでは、アウトリーチと館ワークショップの実施など一段と参加や活動内容の進化が見て取れます。	【評価できる点】 鑑賞サポートツールの開発は重要な取組であると思います。	【評価できる点】 政策目標(事業③)「美術と市民を様々な糸口でつなぎ、美術の魅力を伝えます。」は、継続して、今年度も確実に達成できていると思う。館内外での多様な活動内容を評価したい。 特にボランティア活動は新たな取り組みや体制の見直しなども行っており、改善のマネジメントサイクルが早い点を評価したい。	【評価できる点】 教育プログラム、市民協働とも幅広く、きめ細かいプログラムを丁寧に実施しており、横浜美術館の強みの一つとして評価できる。
	【更なる取組を期待する点】 -	【更なる取組を期待する点】 ・ボランティア活動について、鑑賞ボランティアとビジターサービスボランティアの統合を次年度、予定通り実施し、今後の参画し易さと活性化を期待します。更に枠組みの拡大にともないボランティアルームなどスピーディな環境整備も期待するところ大です。	【更なる取組を期待する点】 -	【更なる取組を期待する点】 市民のアトリエだけでなく、こどものアトリエ事業についても、引き続き実施すべきこと、新たに試行的に取り組むことなど検討してほしい。 ミュージアムの事業にもライフサイクルはある。特にアトリエ事業は見直しの時期にきていると思う。担当者だけでなく全館的かつ市の所管も一緒になって政策協働で、総見直しをすべきではないだろうか。個人的には「アトリエ」の意味を拡大解釈して、一時的にあるいは部分的にAIR・NAP・インスタレーションの場所として活用することも視野に入れて試行してみたいのではないだろうかと考えている。	【更なる取組を期待する点】 病院、高齢者施設でのアウトリーチ、若者自立支援組織との連携などに加え、「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」の施行、同基本計画の決定を踏まえ、アールブリュットの一過性の流行に流されることなく、障害者との向き合い方(鑑賞、創作、展示、研究等々)の基本的な方針を検討してはどうか。

項目	高橋委員	西田委員	丸山委員	村井委員	吉本委員
3 施設の運営事業①	【評価できる点】 アーティストとの連携講座。美術情報センターの運営。	【評価できる点】 ・来館者サービスについては、夜間開館継続実施、季節感の演出等の工夫も含め、着実に業務が遂行されています。 ・ショップ・カフェについては、両面の向上の期待ができます。	【評価できる点】 夜間開館等、ゆきとどいた顧客対応ができていていると思います。	【更なる取組を期待する点】 政策目標「お客様目線とおもてなしの心を持ち、様々な人に開かれた美術館運営を行います。」をめざし、継続的にサービス改善に向けている点を評価したい。	【評価できる点】 計画は着実に実施されている。
	政策目標 お客様目線とおもてなしの心を持ち、様々な人に開かれた美術館運営を行います。	【更なる取組を期待する点】 ・今後国内外来館者もますます多様になると思われ、サービスの向上、工夫に柔軟性を持って対応することが期待されます。	【更なる取組を期待する点】 開放的なエントランスは、本館の特色でもあり、捨てがたいセールスポイントであると思いますが、昨今の社会状況を鑑みると、一定の(来館者に不快感を与えない程度の)リスク対応は必要であると思います。	【更なる取組を期待する点】 ソーシャル・インクルージョン(クリエイティブ・インクルージョン)の観点から取り組んでいる点も公表してほしい。	【更なる取組を期待する点】 (既に取り組んでいるとは思いますが)現在の施設運営上の課題や問題点を明確にし、大規模改修によってハード面の課題を解決するとともに、ソフト面ではリニューアルオープン後の運営マニュアルの更新など、お客様目線に立ったより一層のサービスの向上に努めていただきたい。
3 施設の運営事業②	【評価できる点】 収入増による黒字化。企業連携プログラムの増大。	【評価できる点】 ・大規模改修実施計画に向け、運営面や設計等事業検討が年頭から開始され、同時に現行の適正な施設の管理運営がなされていることを評価します。開館30周年に向けての展覧会、式典など様々なプログラムコンテンツが計画に沿って進められ、業務は多岐にわたりますが的確に遂行されており評価できます。	【評価できる点】 大規模改修を意識した様々な準備が着実に遂行されていると思います。 新規に本社をみなとみらい地区に移転した企業等をターゲットとした様々な事業展開は有効であると思います。	【評価できる点】 政策目標「財政基盤を強化し、効率的で持続可能な運営を実現します。」をめざして、継続的に努力している点を評価する。	【評価できる点】 -
	政策目標 財政基盤を強化し、効率的で持続可能な運営を実現します。	【更なる取組を期待する点】 サポート組織のさらなる強化。	【更なる取組を期待する点】 本年7月にシンガポールの大学を訪れましたが、近隣のシンガポール美術館は改修工事中でした。事前に知っていたことではありますが、残念ではありました。本館の場合も、大規模改修のアナウンスは、事前に徹底してもらいたいと思います。	【更なる取組を期待する点】 「横浜美術館協会」以外にも、若い世代向けの協力組織を作ることには賛同。なるべく敷居は低いが、参加することに意義を感じることができるものをめざしてほしい。フンピース倶楽部のようにネーミングも重要。また、自身が美術館のパトロンの一員であることを誇らしく思えるような組織にしてほしい。	【更なる取組を期待する点】 民間企業からの支援獲得を拡大大策を検討する際に、最近民間企業の間で関心が高まりつつあるSDGsやESG投資の考え方を考慮した戦略を検討する、というのはどうだろうか。個人寄付の獲得については、公益法人のステータス(寄付控除の特典)をもっと強くアピールしてはどうか。
4 その他の業務 政策目標 政策協働による指定管理を推進し、横浜市の専門文化施設として最適な管理運営を実現します。	【評価できる点】 -	【評価できる点】 ・その他の業務については、計画通りに適正に遂行しています。 ・人員体制も適正に整備されています。	【評価できる点】 横浜市と連携しつつ、長期的視点に立った事業運営がなされてきたことは評価できます。	【評価できる点】 政策目標に沿って、管理運営を進めていると思う。	【評価できる点】 -
	【更なる取組を期待する点】 -	【更なる取組を期待する点】 ・今後も引き続き横浜市及び関係機関と連携しながら質の高い管理運営にあたっていただきたいと思います。	【更なる取組を期待する点】 「政策協働」という方式の成果について具体的に検証すべき時期になってきたのかなと思います。	【更なる取組を期待する点】 達成指標をアウトプットの回数だけでなく、アウトカムの指標も検討してほしい。満足度については、主要事業については入れてほしい。 また、横浜市の他の文化施設ではやっていないにしても、政策協働型指定管理者制度を掲げているのであれば、中長期でも事業評価を独自に行ってほしい。年度毎の評価では、継続している事業を真に評価しているとは言えない。特に文化事業は短期では成果が出ないものが多いことは周知のこと。ぜひ、横浜市文化振興課と横浜市芸術文化振興財団で取り組んでほしい。	【更なる取組を期待する点】 指定管理者制度の運用に際し、横浜市がいち早く導入した政策協働方式の効果を最大化すべく、横浜市及び財団には引き続き、尽力いただきたい。
5 人員計画 及び 6 留意事項	【評価できる点】 -	【評価できる点】 ・展覧会の収入増により収支面も大きな黒字を達成しています。とりわけ有料入場者数増は館努力の成果として評価したいと思います。	【評価できる点】 自主事業収入＋利用料収入 < 自主事業費 でしたが、差は大きくはなく、文化施設の収支としては合格ラインと言えそうです。	【評価できる点】 収益を上げ、それを利用者サービス向上や作品保全などに活用している点を評価する。	【評価できる点】 主にモノ展の好調によって、大幅な収入増、黒字となった点は評価できる。
	【更なる取組を期待する点】 -	【更なる取組を期待する点】 ・収支は単年度における視点だけでなく、指定管理期間を横断し運用、収支バランスを俯瞰しつつ施設運営に取り組むことを期待します。	【更なる取組を期待する点】 -	【更なる取組を期待する点】 -	【更なる取組を期待する点】 平成30年度は大幅な黒字となったが、逆に収入が支出を大幅に下回った場合も含め、単年度会計の枠にとらわれない、柔軟な収支計画を実現できる(例えば、大型展で収入を重視する年度と、収入より企画の斬新性を前面に打ち出す年度など)仕組みを検討できないか。
総括	着実かつ有効な基本方針のもと、成果を上げている。 展覧会事業と市民に還元される基礎的なサービス事業とのバランスも良い。	・今年度は、モノ展や横浜美術館コレクション展の国内巡業による集客目標値を上回る成果が得られました。またNAP開催では、新しい層の鑑賞者が多くみられ、NAPが引力となって、企画展やコレクション展にも関心を高める貢献ができています。並行して30周年記念事業及び大規模改修に向けた準備にも取り組み、着実な経営にあたりました。 ・高知県立とアーツ前橋での巡回展が実現でき、横浜美術館コレクションの活用と館の魅力を他地域に発信できたこと、またその存在感を示したことも高く評価出来ます。さらに海外巡回展契約締結(カナダ)を成したことも国内外にその魅力の活用と発信が叶い高く評価したいと思います。 ・美術情報センターについては、各企画展やNAPと連動した事業を行い、利用者拡大の成果をあげました。総じて経営面、事業面では国際都市としてのアクティブな取り組み、多様な展覧会の実施、充実した教育プログラム、市民に開かれた協働の取り組みとボランティアの参画を通して発信する横浜美術館、つながる横浜美術館として確たる存在感を示しました。 ・また施設運営、収支面においても良く健闘され、横浜のみならず日本の美術の魅力的な拠点の一つとして芸術の継承、価値の創造が総力をあげて展開されていることを高く評価いたします。 ・引き続き横浜美術館ならではの独自性も構築しつつ市民に愛される美術館として発信し続けていただくことを期待しています。	トリエンナーレ、大規模改修休館、海外巡回等、大きなプロジェクトが並行して走っています。運営は大変であろうと思いますが、当初計画を、状況に応じて修正し、次年度以降に延期するといった柔軟な対応も見られ、大きな問題は発生していないようです。対処すべき課題の優先順序のつけ方についての経営判断が適切であったと言えるのではないかと思います。	今年度も継続して、政策目標の達成をめざし、すばらしい事業内容であったと思う。 「ヨコハマトリエンナーレ」がないからこそ、横浜美術館らしい企画展やコレクション展、NAPなどが楽しめた事業年度だったと思う。ヨコトリがない年度こそ、自信を持って「らしさ」のアピールをすべきではないだろうか。そうした観点からメリハリのある広報戦略の見直しが必要だと思う。	モノ展をはじめとした充実した企画展、コレクションの国内巡回展の実現、幅広い教育プログラムの展開、次年度のコレクションの海外展の決定など、平成30年度は充実した成果が得られた年度だと評価できる。 美術館にとって大きな節目となる来年度の30周年記念事業、その翌年度の大規模改修を、さらなるステップアップにつなげていただきたい。 評価結果について、横浜美術館のアドボカシー活動として、横浜市民や関係者等に分かり易く伝える方法を検討してほしい。インフォグラフィックスや写真などを活用し、横浜美術館がアピールしたい成果やエピソードに加え、課題や問題点についても掲載するリーフレットのようなイメージ。今期の指定管理10年間をまとめ、数字で見る横浜美術館(入場者数●●万人、展示作品総数●●点等)とか、展覧会ベスト10、教育普及事業のエピソードなどを写真とともにまとめる方法も検討の余地があると思われる。

平成30年度 横浜美術館指定管理者業務評価表（自己評価・行政評価）

使命
(1) 国際都市横浜の美術の拠点として、社会に新しい価値を提案する創造性と発信性の高い、世界から多くの人が訪れる魅力的な美術館になります。 (2) 美術品や関連資料について、調査・研究を行い、的確に評価して新しい価値を市民に伝えとともに、収集、整理、保管、活用し、未来に継承します。 (3) 未来をになう子どもたちの感性を育む美術教育を通して次世代の美術を振興すると同時に、美術を支える人材育成と多様な人々への美術の普及に取り組みます。 (4) 文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会や市民生活に貢献する活動に取り組み、創造的で多様な豊かな社会の形成に貢献します。

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、

評価項目		平成30年度計画			実施状況		
項目		目標の実践	達成指標	目標	実績		説明
1 経営 政策目標（経営）横浜美術館は国際都市横浜の魅力を牽引します。	1	(1) 横浜トリエンナーレ [重点的な取組み]	●ヨコハマトリエンナーレ2020 に向けた準備 ※中期目標:1～2回/3年	平成30年4-6月 プレシンポジウム1回/年	3回/年	A	・2/10,20,3/2
	2	(2) 海外への発信 [重点的な取組み]	●コレクションパッケージ展あるいは企画展の海外巡回 ※中期目標:1～2回/3年	1回/年	来年度実施	C	・カナダへの巡回展契約締結(会場:ナショナル・ギャラリー・オブ・カナダ(オタワ)、会期:2019年10月11日～2020年3月22日、当館写真コレクション展)
	3		●海外インターン受入	1回/年	1回/年	B	・10/22 受入実施(JICA・民博)
	4		●日英での展覧会の会場パネル、カタログ作成	1回/展	1回/展	B	・会場パネルは冒頭パネルと章パネルを日英併記 ・カタログは概要、奥付、挨拶、作品リストを日英併記
	5		●日英での紀要の発行	1回/年	1回/年	B	・3/31 発行(サマリーを日英併記)
	6		●外国人団体向けボランティア・トーク	1回/年(再掲)	1回/年(再掲)	B	・鑑賞教育ボランティアによるトークで実施
	7		●日英での展覧会プレスリリース作成	1回/展	1回/展	B	
	8		●海外メディアへの展覧会プレスリリース送付	1回/展	1回/展	B	
	9		●海外VIPへの展覧会招待状送付	1回/展	1回/展	B	
	10		●海外来館者の把握 ※中期Ⅱ期 1回/年	通年	通年	B	・H28.4以降継続実施
	11		(3) 広報	●展覧会および全館広報などの通常業務	実施	実施	-
	12	□首都圏と横浜の各々に焦点をあてた広報		1回/展	1回/展	B	・ヌード:東京芸大美術館相互割引(首都圏)、崎陽軒ウオーカー(横浜) ・モネ:東急線駅構内売店「toks(トークス)」38店舗でチケット販売(首都圏)、崎陽軒ウオーカー(横浜) ・駒井:資生堂社員割引(首都圏)、崎陽軒ウオーカー(横浜) ・ノグチ長谷川:読売新聞割引(首都圏)、三菱レジデンス居住者割引(横浜)
	13	□ウェブを活用した全館広報		1回/年	来年度実施	C	・来年度4月 30周年ウェブサイト公開
	14	□露出件数		700件/年	2,765件/年	A	
	15	□ウェブサイトアクセス数 ※中期Ⅱ期 5,000,000件/年		4,700,000件/年	6,304,321件/年	A	
	16	□メールマガジン登録数		500人増/年	1,364人増/年	A	
	17	□Twitterフォロワー数		4,000人増/年	2,953人増/年	C	
	18	(4) 外部との連携		●専門館連携あるいは外部連携をしつつ、専門性を活かした横浜市推進事業との連携し、オリジナリティの高い事業を実施 ※中期Ⅱ期 2回/年	4回以上/年	5回/年	A

評価	
自己評価	行政評価
【成果】 ・ヨコハマトリエンナーレ2017の経験を踏まえ、国際展の企画運営の課題を検証し、来年度の横浜美術館30周年に向けて将来のあるべき姿を描くため、劇作家、キュレーター、建築家、アーティストを招き、「展示／鑑賞」、「キュレーション」、「建築」をテーマにした「美術館と国際展を巡る連続講座」を2-3月に3回開催しました。 【課題】 ・会期、会場の決定に際し、市と美術館の両方の調整が必要なため、時間と稼働が非常にかかっています。双方が計画的に業務を進める必要があります。	【評価できる点】 ・ヨコハマトリエンナーレ(2020 に向けた取組)としては、複数回の連続講座を行い、今後のトリエンナーレ開催に向けた、美術館の役割を検証した点を評価します。 ・コレクション海外巡回展について、巡回先の調整の成果として、具体的な道筋がつけられたことにより、横浜美術館の価値の海外発信に向けた具体的成果として評価します。 ・広報については、全般的には、計画した取組が着実に行われています。 ・外部との連携については、積極的な目標設定に対し、さらに上回る形で、多様な施設、機関等と連携した事業を行った点を評価します。
【成果】 ・海外巡回については、IEO 大会(International Exhibitions Organizers Conference)に参加し、当館写真コレクション展のカナダへの巡回展(会場:ナショナル・ギャラリー・オブ・カナダ(オタワ)、会期:2019年10月11日～2020年3月22日)の契約を締結しました。 ・海外インターンについては、国立民族学博物館とJICAに協力し、10月に海外からのインターン生を受入れました。 【課題】 ・海外巡回については、巡回先が見つからず難航しておりました。 ・海外インターンについては、従来よりも継続的・組織的な人的交流となる枠組みを本年度構築する予定でしたが、上述の海外巡回展に注力するため、改めて実施するかどうか、大規模改修中に検討します。	【更なる取組を期待する点】 ・海外への発信については、引き続き、海外巡回展の実現に注力いただくとともに、様々な取組を通じ、今後の取組につながる組織的・人的な繋がりを構築されることを期待します。 ・広報については、SNSの活用方法について、現状の分析をしながら、さらに効果的な手法があるのかどうかを含め、引き続き検討をお願いします。
【成果】 ・露出件数、ウェブサイトアクセス数、メールマガジン登録数は目標を上回りました。 【課題】 ・Twitterは目標に達しませんでした。Twitterの目標人数が前年度から上がっている一方、Twitterユーザー数の延びの鈍化による影響が原因と考えています。 ・全館広報として、来年度の30周年記念事業のウェブサイトを年度内に公開する予定でしたが、開館30周年事業、大規模改修など特別事業が重なり、来年度4月初旬に公開します。来年度は、計画的な業務分担を行い、達成できるよう努めます。	【成果】 ・当館の専門性を活かし、横浜市、財団内施設、文化組織との連携による事業を実施し、当館の活動を広げています。 【課題】 ・現在は、互いに専門性を活かし美術振興に資する事業の他、収益や市政政策に寄与する事業を実施しています。より効果的、効率的な事業の推進に向け、館内での検討を進めます。

平成30年度 横浜美術館指定管理者業務評価表（自己評価・行政評価）

使命
(1) 国際都市横浜の美術の拠点として、社会に新しい価値を提案する創造性と発信性の高い、世界から多くの人が訪れる魅力的な美術館になります。 (2) 美術品や関連資料について、調査・研究を行い、的確に評価して新しい価値を市民に伝えけるとともに、収集、整理、保管、活用し、未来に継承します。 (3) 未来をになう子どもたちの感性を育む美術教育を通して次世代の美術を振興すると同時に、美術を支える人材育成と多様な人々への美術の普及に取り組みます。 (4) 文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会や市民生活に貢献する活動に取り組み、創造的で多様な豊かな社会の形成に貢献します。

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、

評価項目		平成30年度計画			実施状況		
項目		目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	
2 事業 政策目標〈事業①〉質の高い多様な 展覧会の実施と発信を通じて、来館 者の裾野を広げます	1	(1) 企画展	●ヌード NUDE ―英国テート・コレクションより【会期: 3月24日-6月24日・80日間】	100,000人(1,250人/日)	88,814人(1,110人/日)	C	
	2		●モネ それからの100 年【会期:7月14日-9月24日・ 64日間】	120,000人(1,875人/日)	260,375人(4,068人/日)	A	
	3		●駒井哲郎―煌めく紙上の宇宙 ルドンを愛した銅 版画のバイオニアとその時代【会期:10月13日-12月 16日・56日間】	20,000人(357人/日)	28,298人(505人/日)	A	
	4		●イサム・ノグチと長谷川三郎 ―変わるものと変わら ざるもの【会期:1月12日-3月24日・62日間】	30,000人(492人/日)	24,938人(402人/日)	C	
	5	(2) New Artist Picks	●New Artist Picks 開催	1回/年	1回/年	B	・2/23-3/24 最果タヒ展
	6		入場者数 ※中期Ⅱ期 1,500人	3,000人(メイン会場)	10,352人(メイン会場)	A	・30,368人(全会場)
	7		展覧会後5年間の作家の活動を 把握	1回/年	1回/年	B	
政策目標〈事業②〉魅力的なコレク ションを形成、活用するとともに、未来 へ継承します。	8	(1) コレクション	●コレクションの形成、保存に関する通常業務	実施	実施	-	・10/16 内部検討委員会 ・11/19 収集委員会 ・3/19 前年度目録発行
	-		●コレクションの活用	-	-	-	-
	9		・1期【会期:3月24日-6月24日・80日間】	103,500人(1,294人/日)	92,173人(1,152人/日)	C	
	10		・2期【会期:7月14日-9月24日、10月13日-12月16 日・120日間】	145,400人(1,212人/日)	299,050人(2,492人/日)	A	
	11		・3期【会期:1月4日-3月24日・68日間】	34,000人(508人/日)	32,005人(471人/日)	B	
	12		・コレクションパッケージ展国内巡回 ※中期目標:1回/3年	1回/年	2回/年	A	・6/23-9/24横浜美術館コレクション展 @高知県立美術館 10,314人 ・7/6-9/3横浜美術館コレクション展@ アーツ前橋 3,089人
	13		・コレクションの画像と解説をウェブ公開	10作品/年	約1,700作品/年	A	・5/1 約1,700作品の画像と情報をウェ ブアップ
	追加1		・その他【追加実績】:Ⅲ期に向けたコレクション撮 影・公開準備等	-	実施	-	・6月 Ⅲ期実施事項、予算およびスケ ジュール検証

評価	
自己評価	行政評価
【成果】 ・企画展合計の目標27万人に対し、実績は402,425 人(149%)と、目標を上回りました。 ・ヌード展は、英国テートの収蔵作品でヌードの歴史と表現の変遷を辿った、東アジア・パシフィック国際巡回展でした。ヌードという西洋美術の根本的な問題に取り組む挑戦的な展覧会に参加することで、当館の存在を国際的に示し、テートとの関係を構築することができました。 ・モネ展は、モネの作品と後世の作家による作品を対比的に展示し、継承されたモネの革新性と現代美術との結びつきに改めて焦点をあてました。メディアとの共催展でしたが、名古屋美術館と当館の2会場巡回展で、両館の学芸員が構成から出品内容まで作り上げました。目標の二倍の来場者数となり、モネの高い人気と、前会場での展示があり事前告知が行き届いていたこと等がその原因と考えられます。また、読売新聞の回顧2018において、薦谷紀子氏により展覧会ベスト4に選出され、美術関係者からも評価を得ました。 ・秋の駒井展と冬のノグチと長谷川展は、当館所蔵作家に焦点をあてた展覧会でした。駒井展は、学芸員が日頃の研究調査をもとに企画した独自展で、朝日新聞の回顧2018において、同時代の多様なジャンルの芸術家との関係性の中に作家を位置づけた回顧展として取り上げられました。 ・ノグチ長谷川展は、ニューヨークのイサム・ノグチ財団とサンフランシスコのアジア美術館との共同企画による国際巡回展です。当館の学芸員が海外の研究者と交流し、国際的な存在感を発揮しました。	【評価できる点】 ・企画展については、モネ展の集客により、年間の集客目標を大きく上回りました。また、一つの展覧会の集客が、以降の展覧会の周知、前売りの伸びにも繋がるなど、好循環が見られました。大きな集客が見込める展覧会と、日ごろの研究成果に基づく独自企画のサイクルにより、美術館の役割の実践と安定的な経営のバランスの取れた運営ができています。 ・今年度のNAPは、情報センター、カフェを含めた会場構成に合わせた展示内容が非常に効果的でした。作家に対するファンやネットメディアを中心としたロコミ効果もあり、通常とは異なる来館者も多くみられ、これまであまりなかった独特の雰囲気を感じ出しました。
【課題】 ・ヌード展は、新聞各紙の展評に取り上げられるなど話題になりましたが、目標を下回る来場者数でした。「ヌード」というテーマが一般になじみにくく、団体鑑賞も少なかったことに原因があったと考えています。今後、内容が難しい展覧会では、誘客のために展覧会タイトルに更なる工夫が必要と考えています。 ・ノグチ長谷川展は、無料開館日を設けるなど多くの人が来場しやすいよう努めました。来場者は目標を下回りました。独自企画展のため広報予算が少なく、地元メディアに名義共催を依頼しましたが、影響力が弱かったことに原因があったと考えています。今後、独自企画展においても広報の工夫が必要と考えています。	【更なる取組を期待する点】 ・企画展について、展覧会の内容を一般鑑賞者に的確に伝えるテーマ・タイトル設定や、デザインを含めた広報媒体の活用が、非常に重要です。引き続き十分に検証しながら、企画の魅力を効果的に伝える手法を検討していただくことを期待します。 ・今後のNAPについては、今回のような多様な来館者を、企画展や館内の他のエリアにも結びつけられるような積極的な工夫を期待します。
【成果】 ・若手作家支援(NAP)では、初めて詩人を取り上げ、美術館における詩のインスタレーションという意欲的な展示を行いました。美術情報センターを会場として活用するなど新しい試みを行いました。文学関係者や美術関係者の注目を集め、詩人のファンも大勢訪れ、目標を上回る来場者数となりました。	【評価できる点】 ・コレクション展の集客については、企画展の好調な集客と連動し、大きな成果をあげました。 ・2回の国内巡回展を実現したことは、コレクション活用の面から、特筆すべき点として高く評価します。 ・美術情報センターでは、各企画展やNAPと連動した事業展開等により、非常に多くの利用者が来館し、すそ野を広げるきっかけとなりました。
【課題】 ・ギャラリー以外のさまざまな場所を活用して、企画展ではできない実験的な展示をし、さまざまな分野の作家を紹介するために、より豊かな財源が必要です。	【更なる取組を期待する点】 ・現在の展示室を使用した展覧会ができなくなる大規模改修期間を視野に、コレクションや美術情報の国内外での活用を、引き続き検討すること、また、休館期間を活用した調査研究の一層の充実を期待します。
【成果】 ・コレクション展合計の目標28.29万人に対し、実績は423,228人(150%)と、目標を上回りました。 ・コレクションによるパッケージ展の国内巡回については、今夏に高知県立美術館とアーツ前橋で開催することができました。当館コレクションを展覧会として他館で展示したのは国内では初めてのことであり、当館の魅力を他地域に発信できたことは大きな成果と考えています。 ・そして、コレクション作品画像は、5月に1,700点分がウェブサイトのコレクション検索ページで公開されました。大規模改修が予定されている中期Ⅲ期の間に、画像未公開作品の撮影・公開準備等を予定しており、6月に実施事項、予算およびスケジュールについて検討しました。	【更なる取組を期待する点】 ・大規模改修に伴う収蔵庫の拡充など環境の整備と文化基金の充実が必要です。 ・大規模改修期間のコレクションの保管・蔵置方法とあわせて活用方法を検討します。

平成30年度 横浜美術館指定管理者業務評価表（自己評価・行政評価）

使命
(1) 国際都市横浜の美術の拠点として、社会に新しい価値を提案する創造性と発信性の高い、世界から多くの人が訪れる魅力的な美術館になります。 (2) 美術品や関連資料について、調査・研究を行い、的確に評価して新しい価値を市民に伝ええるとともに、収集、整理、保管、活用し、未来に継承します。 (3) 未来をになう子どもたちの感性を育む美術教育を通して次世代の美術を振興すると同時に、美術を支える人材育成と多様な人々への美術の普及に取り組みます。 (4) 文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会や市民生活に貢献する活動に取り組み、創造的で多様性豊かな社会の形成に貢献します。

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し＋10％超の実績→「A」、目標に対し±10％内の実績→「B」、

評価項目		平成30年度計画		実施状況			
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明		
	14	(2) 美術情報センター	●収集、分類、保管、利用者提供などの通常業務：利用者数 ※中期Ⅱ期 17,000人 /年	30,000人/年	45,151人/年	A	
	15		●普及のための事業	5回/年(展覧会と連携した特別展 3回/年、トークイベント 1回/年、学生向け研修 1回/年)	5回/年	B	・3/23-7/18展覧会連動企画特別資料展示(ヌード展前期) ・7/20-10/10展覧会連動企画特別資料展示(ヌード展後期) ・10/12-3/24展覧会連動企画特別資料展示(駒井展) ・2/10トークイベント(市民のアトリエ講座【再掲】) ・8/3大学生向け研修
	16		●第Ⅲ期に向け、開かれた専門性をめざした具体的な取組みを検討：Ⅲ期に向け以下を検証：所蔵映像資料デジタル化 ※中期目標：平成28年10月 検討、平成29年 試行、平成30年 検証予定	実施	実施	－	・6月 Ⅲ期実施事項、予算およびスケジュール検証
	17	(3) 調査・研究	●紀要の発行(論文3本以上,日英併記,販売検討)[再掲：日英併記]	1回/年	1回/年	B	・3/31発行
政策目標(事業③)美術と市民を様々な糸口でつなぎ、美術の魅力を伝えます。	－	(1) 教育プログラム：鑑賞教育 [重点的な取組み] 追加2	●企画展	－	－	－	
	18		・講演会	2回/展	2～3回/展	A	
	19		・ギャラリートーク	2回/展	3～4回/展	A	
	20		・教師向け鑑賞ガイド(ウェブダウンロード)	1回/年	1回/年	B	
	追加2		・その他【追加実績】	－	3件	A	・アートクルーズ：4/21(ヌード),8/25(モネ) ・K2インターナショナル鑑賞会：9/5(モネ),2/20(ノグチ長谷川) ・New Artist Picks朗読＋トーク：2/23
	－		●コレクション展	－	－	－	
	21		・美術館職員の専門性を活かした各種トーク	8回/年	21回/年	A	・Ⅰ期：4/13,27,5/11,20,25,6/8,22ギャラリートーク・アーティストトーク ・Ⅱ期：7/21,27,8/10,24,9/14,10/26,11/9,23,12/14ギャラリートーク・アーティストトーク ・Ⅲ期：1/20,25,2/8,22,3/8ギャラリートーク・アーティストトーク
	22		・創作体験を取入れた鑑賞プログラム	1回/年	1回/年	B	・6/17,7/8,29,8/5,12,19,22(子ども探検隊),9/9,10/28,11/4,3/30 中高生プログラム
	23		・特別支援学校向けプログラム	2回/年	2回/年	B	・12/14,3/3
	24		・学校連携 教師向け鑑賞ガイド(ウェブダウンロード)	1回/年	1回/年	B	・5/26,6/23,12/1 ・3/26 ウェブサイト掲載
	25		・学校連携 アートティチャーズデー	3回/年	3回/年	B	・5/19,9/8,1/26
	追加3		・学校連携 教師向け研修：随時【追加実績】	－	1件	A	・教師向け研修：4/25,5/9, 7/24-25,31,2/20
	追加4		・その他【追加実績】	－	1件	A	・個人向け：子どものアトリエ 美術ってなんじゃもんじゃ：9/2,9&16
	26		●ボランティアによるトーク：個人向け	1回/年	45回/年	A	・2/2-3/23火,土に一日3回ノグチ長谷川展「ココが見どころ！」
	27		外国人向け	1回/年	7回/年	A	・3/2-3/23火,土にノグチ長谷川展「ココが見どころ！」
	追加5		団体向け【追加実績】	－	1件	A	・団体向け：9/11,12,19,21ふれあいコンサート前後の美術館体験ツアー開催

評価	
自己評価	行政評価
【成果】 ・美術情報センターでは、目標人数が前年度から上がったこともあり、「図書館総合展」会期中の11月1日(木)に美術情報センターのみ開室する、市民のアトリエと共同で講座を開催する、NAPの会場の一つとなるなど、新しい試みを行った結果、目標の来場者数に達することができました。 ・そして、大規模改修が予定されている中期Ⅲ期の間に、美術情報センターの所蔵映像資料デジタル化を予定しており、6月に実施事項、予算およびスケジュールについて検討しました。 【課題】 ・環境を整備し、より効率的で質の高い事業を提供することを検討します。	
【成果】 ・計画通り進捗しました。 【課題】 ・学芸員の研究活動を確保できるよう、研究環境の整備が課題となります。 ・現在の紀要は、サマリーを和英で掲載しています。将来的には、全文を英訳し広く海外に当館の研究成果を発信できるよう予算を検討していきたいと考えています。	
【成果】 ・教育プログラムでは、本年度最大の来場者数を見込んでいたモネ展に合わせて、作家と社会の関係性を考察する専門家の講演、若手の出品作家によるアーティストトーク、出品作家による写真ワークショップ、小学生の親子を対象としたワークショップ、中学生が小学生の鑑賞を導く中高生プログラムなどを提供し、当館の多機能性を活かしながら、様々な来場者に多様な角度から展覧会の理解を深めていただきました。 ・コレクションに関する鑑賞教育については、エドゥケーター、学芸員、アーティストによるトークでコレクションへの理解を深めていただくと同時に、特別支援学校、中学校の教師など多様な来場者に向けた個別のプログラムを提供しました。 【課題】 ・人数設定の達成度だけでは活動の内容評価がはかれないため、新たな基準が必要と考えられます。	【評価できる点】 ・鑑賞教育としては、企画展やNAPと合わせた、多様なプログラムにより、鑑賞の理解と作家や展示内容の魅力を伝える足掛かりになる場を提供した点を高く評価します。 ・子どものアトリエでは、アーティストの参加によるプログラムを含め、子供や学校向けに様々なアートの魅力を伝え、触れることのできる場を提供した点を評価します。 ・市民のアトリエでは、企画展に連動した講座が充実しており、関連作家の協力によるプログラムもとても魅力あるものでした。 ・市民協働の取組では、目標数を超える多くのボランティアの方や、さまざまな施設・地域でのアウトリーチ活動等を通じ、多くの市民に参加いただきながら、美術への親しみや理解を広げる取組を行った点を評価します。 【更なる取組を期待する点】 ・親子のフリーゾーンについては、引き続き申し込み方法に応じた定数設定を検証する等、より良い手法を検討していただくことを期待します。 ・アトリエ事業で記載された各課題に基づき、美術館としての役割や、横浜美術館の独自性を踏まえた、講座の企画運営を進めていただくことを期待します。 ・市民協働関連では、令和元年度に予定しているボランティア運営の見直しの中で、より活発な活動に繋げていくこと、また、新たなアウトリーチ先の開拓、プログラムの開発に期待します。

平成30年度 横浜美術館指定管理者業務評価表（自己評価・行政評価）

使命	
(1) 国際都市横浜の美術の拠点として、社会に新しい価値を提案する創造性と発信性の高い、世界から多くの人が訪れる魅力的な美術館になります。 (2) 美術品や関連資料について、調査・研究を行い、的確に評価して新しい価値を市民に伝えるとともに、収集、整理、保管、活用し、未来に継承します。 (3) 未来をになう子どもたちの感性を育む美術教育を通して次世代の美術を振興すると同時に、美術を支える人材育成と多様な人々への美術の普及に取り組みます。 (4) 文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会や市民生活に貢献する活動に取り組み、創造的で多様性豊かな社会の形成に貢献します。	

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、

評価項目		平成30年度計画			実施状況	
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	
	28	(2) 教育プログラム: 子どものアトリエ	●個人むけ講座や学校向けプログラムなどの通常業務:利用者数	25,000人 /年 (再掲:研修)	23,736人 (再掲:研修10回)	B
	29		●第Ⅲ期に向け、外部連携による事業展開を検討:Ⅲ期の学校のためのプログラムおよび個人講座の再編にむけて以下検証 ・学校のためのプログラム(学校のためのプログラムと教師・保育士研修のバランスを見直し、より高い波及効果を狙う):学校プログラム90校 (再掲:研修) ・個人講座(アーティストや外部専門文化機関と連携し、美術館のアトリエとしての独自性を発揮する):個人講座20講座中、アーティストあるいは外部専門文化機関との連携2講座/年 ※中期目標:平成28年10月 検討、平成29年 試行、平成30年 検証予定	実施	実施	－
	30		●環境に関する講座や展覧会と連携した講座などの個人向けワークショップに加え、自主的に制作に取り組むオープンスタジオなどの通常業務:利用者数	5,500人 /年	6,995人	A
	31		●著名アーティスト連携による新分野講座	2講座/年	2講座/年	B
	－		●東京藝術大学連携講座 ※中期目標:1講座/3年	－	－	－
	32	●横浜市芸術文化プラットフォームによる学校連携	3回/年	3回/年	B	
	33	(4) 市民協働:ボランティア等	●子どものアトリエボランティア	20人/年	39人/年	A
	34		●美術情報センターボランティア	5人/年	11人/年	A
	35		●鑑賞ボランティア	25人/年	54人/年	A
	－		●ビジターサービス	－	－	－
	36		・横浜シティガイド協会等と連携した活動	2回/年	2回/年	B
	37		・外国人、障がい者、観光案内へのきめ細やかな応対を行うビジターサービス・ボランティアの推進検討	10人/年	15人/年	A
	38		●「原三溪市民研究会」等と共同研究会実施	1回/月	1回/月	B
	39		(5) 市民協働:コレクション・フレンズ	●参加者数の拡大	180口	212口
40	●メンバーシップの多様化とプロモーション策検討: ・3口以上の会員に企画展に関する特典提供 平成28年4月 以降継続 ・プロモーション 1月実施 ※中期Ⅱ期 平成28年4月	実施		実施	－	
－	(6) 市民協働:各種社会貢献事業	●アウトリーチ				
41		・病院等	2回/年	3回/年	A	
42		・福祉施設	1回/年	1回/年	B	
43		・高齢者施設	1回/年	1回/年	B	
追加6		・その他【追加実績】	－	1件	A	
－		●人材育成				
44		・博物館実習	1回/年	1回/年	B	
45		・子どものアトリエ インターンシップ	5人/年	13人/年	A	
46		・教師のためのワークショップ	2回/年	2回/年(再掲)	B	

評価	
自己評価	行政評価
【成果】 ・子どものアトリエでは、パーカッションストやヨコハマトリエンナーレ2014出品作家による2講座を実施し、アーティストとの連携を深めています。 【課題】 ・来場者数が目標に達しなかった要因としては、フリーゾーンの予約後のキャンセルが多いこと、少子化に伴う学校プログラムの一回あたりの参加人数が減少していることがあげられます。今後、事前申込制の利点である安全性と利便性を担保しつつ、キャンセル率の予測精度をできる限り向上させたいと考えています。 ・今後は、館内で協議して、美術館の独自性をアピールし、子どもたちの成長に不可欠な活動として時代に即した新たな講座を展開できる財源を検討していきたいと考えています。 ・人数設定の達成度だけでは活動の内容評価がはかれないため、新たな基準が必要と考えられます。	
【成果】 ・市民のアトリエでは、本年度はすべての企画展と連携し、デッサン、写真、版画、拓本の講座を実施しています。また、写真家が自分以外の写真家の写真集について美術情報センターで語るとい、今までにない講座も開催しており、著名アーティストとの連携が定着してきています。 【課題】 ・集客しやすさの観点で講座を企画することもあり、その結果、民間の講座との差別化が難しくなっています。今後は、館内で協議して、美術館の独自性をアピールし、より新たな講座を展開できる財源を検討していきたいと考えています。 ・人数設定の達成度だけでは活動の内容評価がはかれないため、新たな基準が必要と考えられます。	
【成果】 ・ボランティアについては、来年度から鑑賞ボランティアとビジターサービス・ボランティアとを統合し、ボランティアの方がより美術館活動に参画しやすい環境を調え、一層の活性化を目指します。 【課題】 ・ボランティアルームなどの環境の整備をし、より効率的で質の高い事業を提供することを検討します。	
【成果】 ・計画通り進捗しました。 【課題】 ・今後は、協力会との関係を活かした営業体制を検討したいと考えます。	
【成果】 ・アウトリーチでは、従来より引き続き、病院、高齢者施設でのアウトリーチを行い、また、市内の若者自立支援組織と連携し、アウトリーチと当館でのワークショップを実施しています。 ・人材育成については、博物館実習で8 人を受入れました。 【課題】 ・アウトリーチ先を開拓し、新たなプログラムを開発することを検討します。	

平成30年度 横浜美術館指定管理者業務評価表（自己評価・行政評価）

使命	
(1) 国際都市横浜の美術の拠点として、社会に新しい価値を提案する創造性と発信性の高い、世界から多くの人が訪れる魅力的な美術館になります。 (2) 美術品や関連資料について、調査・研究を行い、的確に評価して新しい価値を市民に伝えけるとともに、収集、整理、保管、活用し、未来に継承します。 (3) 未来をになう子どもたちの感性を育む美術教育を通して次世代の美術を振興すると同時に、美術を支える人材育成と多様な人々への美術の普及に取り組みます。 (4) 文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会や市民生活に貢献する活動に取り組み、創造的で多様性豊かな社会の形成に貢献します。	

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、

評価項目		平成30年度計画		実施状況	
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明
3 施設の運営事業	(1) 来館者サービスの充実	●四つの基本方針に従った来館者サービス業務 1)顧客サービスの質向上 2)顧客サービスの拡大:市民協働 ・個人向け(ボランティア):託児⇒ベビーカー付添 車いす付添 外国人調査等対応 ・団体:一般/学校 ・観光客:レセプション/営業 ・近隣業者:かもめ/マークイズ 夜間開館 3)館内配布パンフレットやサイン ・マニュアル策定・マニュアル外の修正 ・新情報機器 ・大規模改修前後の計画 4)季節感あるおもてなし ・ソファ ・植物	-	-	-
政策目標<施設運営①>お客様目線とおもてなしの心を持ち、様々な人に開かれた美術館運営を行います。	1		実施	実施	1) 委託会社契約に質向上に関する項目追加継続 2) 多様な方々が来館しやすくなる施策を実施 ・団体:46団体に事前レクチャー提供 ・近隣業者: ・マークイズ4/10,5/8,6/12,7/10,8/14,9/11,10/9,11/13,12/11,1/8,2/12,3/12 ・MMCC 6/8,9/14 ・夜間開館 5/11,6/8,8/10,17,24,31,9/14,15,21,22,11/23,3/2 3) パンフレット等整備 ・通常業務実施 4) 植物、ソファ等設置 ・11/9-2/21 カフェイルミネーション ・12/26-1/7門松 ・1/4-19装花
	2	●第Ⅲ期に向け、さらなるお客様の高い満足度をめざした具体的な取組みを検討:政策経営協議会で検討	1回/年	1回/年	B ・大規模改修中のサイン・パンフレット・新情報機器・ソファ等更新 6月 Ⅲ期実施事項、予算およびスケジュール検討
	3	□展覧会来館者アンケート「スタッフの対応」評点	4.00以上	4.21	B
	4	□展覧会来館者アンケート「使い勝手のよさ、清潔さ」評点	4.30以上	4.49	B
	-	(2) ショップやカフェの付加価値の向上	●ショップ ・コレクションを活用したオリジナル商品:1商品/年 ・企画展関連商品コーナー:1回/企画展 ●カフェ ・コレクションを活用したオリジナルメニュー:1商品/ ・企画展関連メニュー:1商品/企画展	-	-
	5		1商品/年	2商品/年	A ・3月 30周年ワイン、お菓子
	6		1回/企画展	1回/企画展	B
	-		-	-	
	7		1商品/年	1商品/年	B ・1月
	8		1商品/企画展	1〜2商品/企画展	A ・ヌード:2商品 ・モネ:2商品 ・駒井:2商品 ・ノグチ長谷川:1商品
政策目標<施設運営②>財政基盤を強化し、効率的で持続可能な運営を実現します。	9	(1) 適正な施設管理	●大規模改修:大規模改修の実施にむけ市と協働 ●日々の適正な施設管理:安全管理事故 ●災害対応 ・マニュアルの最新化と共有 ・訓練 ●開館30周年事業を検討する:H28の案に基づき以下準備:実施年のH31に向け、体制・事業・財源の確定 ※中期目標:平成28年10月 案策定、平成29・30年	実施	実施
	10		0件/年	0件/年	B
	-		-	-	
	11		1回/年	1回/年	B ・4/8
	12		2回/年	2回/年	B ・8/28,2/26
	13		実施	実施	- ・6月 確定
	-	(2) 経営基盤の強化	●ファンドレイジング ・平成26年度に始動した法人協賛制度支援者拡大:2社増/年 ・企業との関係構築にむけた継続的な営業活動:10社/年 ・第Ⅲ期にむけた、新たなファンドレイズを検討:Ⅲ期にむけて以下試行:H31の30周年に向けた個人向け寄付実施 ※中期目標:平成28年10月 検討、平成29年 試行、平成30年 検証予定 ・その他【追加実績】	-	-
	14		2社増/年	4社増/年	A ・4社増/年(目標7社,実績9社)
	15		10社/年	10社/年	B
	16		実施	未実施	C ・10月 H31の30周年にむけた個人向け寄付にむけて昨年度調査した結果、費用対効果を鑑み、従来の法人向け協賛制度を用いた活動に注力することを決定
	追加1		-	3件	A ・10/20-21 SUV展示会 ・12/7-8 オートカラーウォード ・2/22 野村総研特別鑑賞会
	-	(3) 人材強化	●国際グループの新配置:平成28年4月実施済 ●学芸員、エドューケーター育成を再構築:学芸員、エドューケーターの求める人材像を定め、人材育成に活用	-	-
	17		実施	実施	- ・財団スケジュールに従い実施

評価	
自己評価	行政評価
【成果】 ・委託会社契約に質向上に関する項目追加を継続し、顧客サービス員の質向上を図り、首都圏や近隣就業者を狙った企画展毎の夜間開館の継続実施等を通じ、多様な来館者にお越しいただけるよう工夫しています。 ・本年度もカフェイルミネーション、お正月装花など、季節にあわせた心地よい空間を作り上げました。 ・そして、大規模改修が予定されている中期Ⅲ期の間に、サイン・パンフレット・新情報機器・ソファ等更新を予定しており、6月に実施事項、予算およびスケジュールの検証を実施しました。	【評価できる点】 ・来館者サービスについては、計画に従い、着実に業務を遂行した点を評価します。 ・ショップ・カフェについて、企画展ごとの関連メニュー、30周年記念商品など、季節をとらえた商品展開を行っている点を評価します。 【更なる取組を期待する点】 ・引き続き日々の業務において、お客様の目線に立ち、サービスの向上につなげていただくことを期待します。
【課題】 ・環境の整備をし、あらたなサービスを効果的、効率的に提供することを検討します。	
【成果】 ・計画通り進捗しました。	
【課題】 ・環境の整備をし、あらたなサービスを効果的、効率的に提供することを検討します。	
【成果】 ・大規模改修実施計画に向けた事業検討を1月に開始しました。 ・中期Ⅲ期の初年度の開館30周年事業については、展覧会、シンポジウム、記念誌、式典、グッズ製作など計画的に進めています。	【評価できる点】 ・大規模改修関係で、設計や運営面での多岐にわたる調整を行っていただいたほか、日ごろのきめ細かな施設管理により、安全な運営が実現できている点を評価します。 ・企業等の法人に向けた営業活動により、外部資金の獲得を図る一方で、当該企業と連携した事業展開を充実させるなど、有機的な繋がりを生み出している点を評価します。
【課題】 ・大規模改修については、ハードとソフトの両面から横浜美術館の姿を描き、推進していきたいと考えます。	
【成果】 ・企業連携プログラムHeart to Artについては、4社増となり、9社と契約し、目標を達成しています。	【更なる取組を期待する点】 ・美術館活動を支える、個人・法人からの寄附の枠組み作りについて、引き続き検討を進めていただくことを期待します。
【課題】 ・そして、30周年に向けた個人向け寄付のため、昨年度調査した結果、費用対効果を鑑み、従来の法人向け協賛制度を用いた活動に注力することを決定しました。今後は、協力会との関係を活かした営業体制を検討していきます。 ・大規模改修後に向けて、横浜市、横浜美術館協会と共に法人、個人支援の新たな制度検討を進めていきたいと考えています。	
【成果】 ・計画通り進捗しました。	
【課題】 ・人材強化については、次期指定管理期間となりますが、大規模改修後の横浜美術館の姿を描き、人材育成を検討していきたいと考えています。	

平成30年度 横浜美術館指定管理者業務評価表（自己評価・行政評価）

使命
(1) 国際都市横浜の美術の拠点として、社会に新しい価値を提案する創造性と発信性の高い、世界から多くの人が訪れる魅力的な美術館になります。 (2) 美術品や関連資料について、調査・研究を行い、的確に評価して新しい価値を市民に伝えけるとともに、収集、整理、保管、活用し、未来に継承します。 (3) 未来をになう子どもたちの感性を育む美術教育を通して次世代の美術を振興すると同時に、美術を支える人材育成と多様な人々への美術の普及に取り組みます。 (4) 文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会や市民生活に貢献する活動に取り組み、創造的で多様な豊かな社会の形成に貢献します。

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、

評価項目		平成30年度計画		実施状況	
項目		達成指標	目標	実績	説明
4 その他の業務 政策目標(その他の業務)政策協働による指定管理を推進し、横浜市の専門文化施設として最適な管理運営を実現します。	1	●市の政策と事業の相互連携:政策経営協議会	4回/年	3回/年	C ・4/24,7/24,11/20 ※1/22市と協議の上中止 ※6/15,8/28,9/10,19,3/1,19外部評価委員の対応
	2		●進捗状況報告 ※評価は協約期間終了時に実施	1回/年	B ・11/20半期振返り報告
	3		●外部意見の取入れ 外部有識者を交えた教育普及企画運営会議	1回/年	B ・12/24,1/7教育普及事業会議 勉強会
	4	●年報発行	1回/年	1回/年	B ・3月発行
5 人員計画	1	過去の実績を踏まえ、高い専門性を発揮できる組織として、事業展開と施設の安全安心な運営を強化	46 人 ・館長1 人 ・副館長1 人 ・グループ長4 人 ・担当グループ長2 人 ・チームリーダー9 人 ・担当リーダー・職員29人	計 52 人 ・館長 1 人 ・副館長 2人 ・グループ長 4人 ・担当グループ長 1人 ・チームリーダー 8人 ・担当リーダー・職員36人	－
6 留意事項	－	－	－	－	－
保険及び損害賠償の取扱い	1	業務の基準に基づいた適正な取扱い	実施	実施	－
法令の遵守と個人情報保護	2	コンプライアンス窓口を設置し対応	実施	実施	－ ・財団にて設置済
	3	個人情報保護研修	1回/年	1回/年	B ・2/20 全職員実施
情報公開への積極的取組	4	財団事務局に情報公開窓口を設置し対応	実施	実施	－
市及び関係機関等との連絡調整	5	横浜市や関連機関との連絡緊密化	実施	実施	－
その他 1)許認可及び届出等 2)施設の目的外使用 3)人権の尊重 4)近隣対策 5)重要書類の管理 6)行政機関が策定する基準等の遵守	6	法令・条例・規程等に基づいた適正な管理実施	実施	実施	－
7 収支計画			(円) 収入合計1,186,038,000 指定管理料収入759,971,000 利用料金収入68,851,000 自主事業収入276,402,000 その他80,814,000	(円) 収入合計1,281,788,089 指定管理料収入759,971,000 利用料金収入81,566,004 自主事業収入365,578,979 その他74,672,106	
			(円) 支出合計1,186,038,000 人件費366,143,000 事務費9,655,000 事業費419,454,000 管理費211,676,000 その他支出179,110,000	(円) 支出合計1,216,300,344 人件費361,008,264 事務費11,979,020 事業費452,414,630 管理費211,783,798 その他支出179,114,632	

評価	
自己評価	行政評価
【成果】 ・ほば、計画通り進捗しました。 【課題】 ・今後は、より、美術振興に資する事業をフレキシブルに密度濃く実施できるよう、指定管理制度に伴う事務低減策を検討したいと考えております。 ・次期指定管理期間となりますが、大規模改修後の横浜美術館の姿を描き、施策を検討していきたいと考えています。	【評価できる点】 ・その他の業務については、目的に対し十分な業務を遂行しました。 ・また、業務に必要な人員体制を整備しています。 ・その他、法令を遵守しながら、本市及び関係機関と連携しながら施設の管理運営が行われました。 【更なる取組を期待する点】 ・特になし
【成果】 ・計画通り進捗しました。 【課題】 ・次期指定管理期間となりますが、大規模改修後の横浜美術館の姿を描き、人員計画を検討して行きたいと考えています。	
【成果】 ・計画通り進捗しました。 【課題】 ・大規模改修後の横浜美術館の姿を描き、施策を検討します。	
【成果】 ・モノ展の有料入場者数増等により収入増となりました。収益を、来館者用の備品更新や作品保全費等にあて、収支としては、約6,500万円の黒字となりました。 【課題】 ・黒字決算の場合には、指定管理期間内の将来の計画実現に向けた積立をするなど、単年度ではない視点で運用ができるよう検討が必要です。	【評価できる点】 ・展覧会の好調により、収支面でも大きな黒字を達成しました。 【更なる取組を期待する点】 引き続き、収支バランスに配慮した施設運営に期待します。

総括	評価	
	自己評価	行政評価
	本年度は、多くの来場者のあったモノ展や当館コレクション展の国内巡回を通じて、当館の存在感を発揮しつつ、来年度の30周年記念事業と、再来年度の大規模改修に向けた準備を着実に行いました。 コレクションの発信については、国内では、今夏に高知市と前橋市で国内初の展覧会として当館のコレクションを展示することができ、当館コレクションの魅力を他地域に発信できたことには大きな意義がありました。そして、海外では、2019年に、当館写真コレクション展がカナダで開催される見込みです。 教育プログラムについても、モノ展に合わせて、専門家によるトーク、出品作家によるトークとワークショップ、小学生とその親向け、中高生と小学生向けのワークショップなどを提供し、当館の多機能性を活かして、様々な来場者に多様な角度から展覧会の理解を深めていただきました。 30周年記念事業については、展覧会を始め各種事業の準備を全館体制ですすめました。そして、大規模改修に向けては、コレクション撮影と公開、美術情報センター所蔵の映像資料デジタル化、子どものアトリエのプログラム見直し、ビジターサービス拡充、ファンドレイジングの見直し、大規模改修実施計画に向けた事業検討を計画的に行いました。	・今年度の業務実績としては、展覧会の大きな集客面での成功、2回の国内巡回展の開催、海外巡回展の方向付け、若手支援事業(NAP)などで良好な成果をあげました。 ・また、教育普及事業における企画展やアーティストと連携した充実した取組、同様に企画展や若手支援事業と連動した美術情報センターの取組、30周年に向けた準備の着実な進捗と大規模改修に向けた多岐にわたる協力など、各部門での活動により、美術館の付加価値を高めるとともに、円滑な施設運営に繋がっています。 ・これらの取組により、美術の魅力をより多くの市民・来館者に伝えることができたことに加え、国内外への発信力を高め、経営面でも安定した活動につながった点が、高く評価できます。 ・引き続き、30周年の取組と大規模改修に向けた中期Ⅲ期の取組に向け、美術館の役割を明確にしながら、充実した活動を重ねていただくことを期待します。